



株式会社ヤマサ デジタル時代の経営それは内製化と 人材獲得への挑戦

取締役総務部長
依田 剛氏

代表取締役社長
北爪 寛孝氏

取締役会長
大久保 典昭氏

総務部デジタル推進課
バーチャルリアリティ技術者
西村 太一氏

現在、企業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は極めて重要なテーマとなっています。特に、事業承継を控えた企業においては、DXが事業の持続可能性に与える影響が非常に大きい事が考えられます。今回は、本年度、デジタルシティ松本推進認定企業選考において三つ星の最優秀賞を受賞された、株式会社ヤマサ様にDX推進と事業承継税制の活用がもたらす変革についてお聞きしました。

1. 事業承継とDXを同時に進めたことによる利点はありましたか？

大久保会長 事業承継が迫る中、当社は新たなリーダーとして私の娘婿の北爪を社長とすることで事業承継税制を活用しました。これは事業の持続性を確保し、円滑な承継を実現するための重要なことでした。新たな経営陣の体制により、当社の方針や戦略が変わる中、DXが加速する契機となりました。

2. デジタル化の進捗が経営方針に変革をもたらした具体的な要因は何でしたか？

大久保会長 事業承継を契機に、当社はデジタル化の遅れに注目し、これを逆手に取りDXを推進することを決定しました。デジタル化の進捗に伴い、経営方針にも変革がもたらされ、その結果、経済産業大臣認定のDX認定事業者として認められ、デジタルシティ松本推進認定企業三つ星として最優秀賞に選ばれました。

3. デジタル化への抵抗感がある世代の社員に対して、費用と人材の確保に関する懸念をどのように解消しましたか？

大久保会長 デジタル化には共通の課題があり、その一環として費用と人材の確保が挙げられます。特に古い世代の社員からは変革への抵抗感があるようです。しかし、デジタル化を進める中で、費用のかかる点や新たな人材の採用に対する懸念があることを認識し、それが将来的な展望において不可欠であるとの結論に至りました。これに対処するため、当社は継続的な教育プログラムの導入により、社員全体のデジタルリテラシー向上に注力しています。

4. 内製化による利点は何ですか？

北爪社長 DX推進の鍵として、ITエンジニアによる内製化に注目しました。内製化により、現場の社員と連携しながらスピーディーな開発が可能となりました。当社では、内製化により、DXプロジェクトが成功に進行していると言えるでしょう。また、国内外のDXにも迅速に対応し、立ち遅れを克服しています。内製化は単なる技術の獲得だけでなく、企業文化の変革にも寄与しており、社員の主体性を高めています。

5. DXを製造部門に導入するにあたり、どのような課題やニーズが顕在化しましたか？

北爪社長 当社は事業の多様性を背景に、骨材の製造部門でもDXを進めています。この取り組みは、業界に先駆けたもので、AIを活用しデータを繋ぎ込むことで新たな製造手法を確立しました。この独自アプローチが評価され、特許の取得に成功しました。特許の取得は企業価値の向上に繋がり、競争優位性を築く一翼となっています。



6. 産学連携において、市場での差別化を果たすためにどのように具体的な取り組みや戦略がありますか？

北爪社長 信州大学・松本工業高校との連携は、当社にとって新しい繋がりを生み出しました。これは単なる技術提供だけでなく、異なる領域の専門家との出会いやアイデアの共有、学術的研究といった側面でも重要です。産学連携により、当社は市場において他社との差別化を果たし、新たな事業展開や市場開拓の機会を得ています。研究機関、教育機関との連携は、当社の成長において重要なパートナーシップとなっています。



7. 内製化により、企業内で IT エンジニアが直接的に関与することが、どのような付加価値をもたらしていると感じていますか？

<https://www.itadoro.com/>

西村担当 内製化の中で、企業内に IT エンジニアがいると、ベンダーとの交渉があった場合も円滑に計画が進むメリットはすごく大きいと自分でやっていて思います。「1.5m 先にユーザーがいる」現場に近い所で作ると良いものが、早く出来ることでビジネスに対するメリットがすごくあると思います。

北爪社長 当社が抱える食料、燃料、建設などの伝統的な業種は、従来の働き方や業務プロセスが根付いており、これが若い人材にとっては魅力的でない理由となっています。特に、建設業界では近年、新規参加者が減少しており、若手の採用が難しい状況が続いています。しかし、こうした伝統的な業種においてもデジタル変革が進む中で、それが新たな魅力を生み出す契機となっています。当社は積極的にデジタル化を進め、従来のワークフローを大幅に改善しています。エッセンシャルな業務もデジタルに移行し、従業員にはデジタル技術の学習環境を提供しています。これにより、若手層にとっても魅力的な働き方やスキルの習得が可能となっています。

8. デジタル化の推進において人材獲得が鍵となる理由について、具体的な挑戦や課題は何ですか？

北爪社長 デジタル化の推進において、人材獲得が鍵となります。同規模の企業であれば、内製化の為に、IT エンジニアの求人募集が成功の鍵と考えます。経済縮小や人口減少の中で企業の存続が可能となり、DX への取り組みが不可欠であることを示唆しています。

9. 今後への展望はどのようなことをお考えですか？

北爪社長 最初から高度なことは出来ないため低価格のパッケージソフトなどで、先ずはやってみるのが良いのではないかと考えます。当社はDXのXの部分にも取り組みたいと考えています。また、コストと人材の課題にも着実に対処しています。特に、IT エンジニアのさらなる連携とリスクリングに力を注ぎ、業界の厳しい状況にも前向きな体制を構築し将来に備え、新たな事業機会を模索しています。DXの鍵は人材獲得にあると認識し、企業の存続に不可欠な戦略として展開してまいります。

【認定状況】



2023年 8月 1日
経済産業大臣よりDX認定事業者の認定



2023年10月 2日
松本市長より
デジタルシティ松本推進
認定企業 三つ星の認定



株式会社ヤマサ

所在地：松本市大字笹賀7600-22

代表者：代表取締役社長 北爪寛孝

事業内容：建設関連事業・燃料事業・食糧事業・ドライアイス事業
通販事業（そばぶるまい）・デジタル事業

沿革：1870（明治03）個人営業にて、木材・米穀業を開業

概要：1950（昭和25）個人営業を、株式会社組織に改組

（株）大久保商店、屋号をヤマサとする

1955（昭和30）～現在建設事業、食糧事業、燃料事業、
ドライアイス事業、通販事業、不動産事業、デジタル事業などを業とする。



URL:<https://www.s-yamasa.co.jp/>